

[特集：音楽療法]

新潟県における音楽療法の現況と今後の展望

音楽療法士 松田美穂

キーワード：音楽療法、新潟県

The current state of music therapy in Niigata Prefecture and its perspective hereafter

Miho Matsuda, M. T.

Abstract

A study group of Niigata music therapists celebrates her 10th anniversary with interest and hope toward an increased use of music therapy in Niigata prefecture. The membership is over 70 people, the majority having music connections and occupational therapists comprising approximately 70 per cent. It is working for the diffusion and study of music therapy through holding annual research meetings and study meetings together with the publication of semiannual reports. Up to now, the theme of the research has been in geriatric and psychology, but we now extend the areas to children and terminal care activity.

Key word : music therapy , Niigata Prefecture,

要旨

新潟県においても音楽療法へ関心と期待が高まる中、新潟音楽療法研究会は発足より10年を迎えた。現在の会員数は70余名でその中でも音楽関係者が漸次増加し、作業療法士と併せると全会員の約70%を占めている。最近は研究会、研修会を各々年1回開催し、会報を年2回発行、音楽療法の普及研究活動に努めている。これまでの研究会の主たる対象は高齢者、並びに精神科領域が多かった。今後は児童やターミナルの分野への活動の広がりと更なる研究、実践の発展が望まれる。

I はじめに

癒しの技法としての音楽療法の効果については周知の事実であるが、残念ながら我

が国は欧米に比べ数十年の遅れがあると言われている。音楽療法の全国組織としては日本音楽療法学会があり、平成14年3月末現在の会員数は5900余名、学会認定の音楽療法士は578名である。この内新潟県の認定音楽療法士はわずか5名である。新潟音楽療法研究会の歩みと現況、並びに高齢者施設でのアンケート調査結果を示し、県内の音楽療法の現況と今後の展望について述べる。

II 新潟音楽療法研究会の歩み

音楽療法を実践している者同士が情報交換を行い、知識を深め現場に役立てようと作業療法士の早川昭氏が中心となり、田宮病院で松井紀和氏^{注1)}による音楽療法の実践の見学と講義を受けたのが研究会の始まり

である。発足後10年になる研究会の経過を表-1に示した。

第1期は作業療法士や介護関係者が中心で、研究会参加者は毎回15~20名であった。平成6年11月には門間陽子氏^{注2)}を招き講義・ワークショップを行った。

第2期、平成7年7月に音楽療法研究会(新潟)を新潟音楽療法研究会に変更、規約を作成し年会費制として再発足した。会員は60名となり、音楽家の参加が増えた。研究会には毎回20名~25名の参加があり、平成10年6月に再度松井氏の講義と実践の見

学を行った。

第3期には会員が更に増え70余名となり、医療関係者と音楽家の比率は半々となった。音楽療法への関心が高まる中、本格的な活動が始まった。平成11年からは年2回会報を発行、翌12年からは研究会および研修会をそれぞれ年1回定期的に開催している。これまでの開催回数は研究会は19回、研修会は2回である。

^{注1)} 松井紀和 日本臨床心理研究所所長

^{注2)} 門間陽子 岐阜県音楽療法研究所所長

表-1 新潟音楽療法研究会の経過

時期	期間	研究会等	会員数	状況
第1期	平成4年6月~	2回/年	約30名	<ul style="list-style-type: none"> ・会員は作業療法士や介護関係者が中心。 ・研究会の参加者は15名~20名。 ・研究会での発表は実践報告、活動に関する紹介がほとんどであった。
第2期	平成7年7月~	2回/年	約60名	<ul style="list-style-type: none"> ・会の名称を「音楽療法研究会(新潟)」から「新潟音楽療法研究会」に変更。 ・規約を作成、年会費制とし研究会を再発足。 ・音楽関係の会員が徐々に増え音楽の講義が増えた。
第3期	平成11年4月~現在	2回/年 (1回は研修会)	約70名	<ul style="list-style-type: none"> ・会報の発行、年1回の研修会も開催することになり、本格的な活動が始まった。 ・会員は医療関係者と音楽関係者がほぼ半々となる。

III 新潟県内の音楽療法の現況

1 研究会会員の職種について

平成14年6月現在の会員数は73名で音楽関係者は27名、作業療法士22名、介護職員5名、看護師2名、公務員2名、理学療法士1名、言語聴覚士1名、保育士1名、その他13名である。音楽関係者と作業療法士が大半を占めている。

2 研究会の発表演題について

県内の状況を把握するために研究会において発表された演題数を日本音楽療法学会と比較してみた(表-2)。学会においては高齢者に対する演題が多く、当研究会でも同じ傾向が認められた。精神科領域の割合

は研究会の方が多く、児童領域は少ない。これは作業療法士が多いことと、実際に児童領域で実践している会員が少ないと要因であろう。ターミナルケア関連の演題が学会では8.6%発表されている。しかし当研究会ではまだなく、今後はターミナルケアに対する取り組みも必要となってくるだろう。

3 県内の高齢者施設に対して行ったアンケート調査結果より(文献1)

平成9年に松田が行った特別養護老人ホーム、老人保健施設を対象としたアンケート調査では、76.0%の施設で音楽を用いた療法が行われていた。この全てを音楽療法と

表一 2 新潟音楽療法研究会の分野別発表演題数

分 野	新潟音楽療法研究会		日本音楽療法学会	
	演題数	割合 (%)	演題数	割合 (%)
児童	3	10.0	29	26.7
成人・精神科	8	27.6	14	13.3
高齢者	12	40.0	46	43.8
内科・ターミナルケア	0	0	9	8.6
その他	7	23.3	7	6.7
合 計	30	100	105	100

- * 1. 新潟音楽療法研究会の演題は、研究会の発足からこれまでの間に発表されたものをカウントした。
- * 2. 日本音楽療法学会の演題は、第1回の学会時に発表されたものをカウントした。

するには問題があるが、78.9%の施設が効果を認めていた。そして音楽療法担当職員の多くは基礎的な音楽技術や音楽療法の知識を欲していた。より効果的な音楽療法を実施する為にも、これら施設にも音楽療法士が必要である。

IV 今後の展望

新潟音楽療法研究会はこれまでの歩みの中で、会員の情報交換の場の提供だけではなく、音楽療法の普及・研究活動にも、地道な努力を積み重ねてきた。今後も音楽療法を学びたい人や実践者に対して、質的向上が目指せるようバックアップしていく。これからの方針としては3つのことが考えられる。

第1には音楽療法の有効性の科学的な評価・研究への取り組み。

第2には当研究会での研究領域を拡大し、高齢者、精神科だけでなく児童、ターミナルケアにも実践、研究の範囲を広げること。

第3にはチームケアとしての音楽療法への取り組みである。当研究会は様々な職種が集まっているのでこの利点を活かした活動をしていきたい。

V 結び

新潟音楽療法研究会は発足してわずか10年であるが、新潟県の音楽療法の基盤を築きリードしてきたといつても過言ではないだろう。私自身も平成7年より会員となっ

ているが、今後も研究会が新潟県の音楽療法の更なる発展に貢献できるよう努力していきたい。

文献

- 1) 松田美穂：新潟県の高齢者施設における音楽療法の現況および問題点、県立新潟女子短期大学研究紀要35、35-40, 1998.